

## はしがき

海外で学んだり、働いたりする日本人は 20 世紀末から急増している。人が動くことは文化が動くことであり、そこでの宗教や宗教文化の交わりは、必然的に膨大なものになっていく。そしてそこで生じる問題はグローバル化がもたらす衝撃と相まって、これまでになく入り組んだ様相を示し始めている。

21 世紀に入ってから日本宗教の国外での展開は、全体としてみるなら、それほど活発になっているとは言い難い。しかし北米では外国人が宮司になった神社が出現しているし、伝統仏教宗派も、移民社会の縮小を目のあたりにしながら、新しい試みを手がけようとしている。また禅仏教は、実は宗教研究者さえもあまり認識していないが、欧米にはかなりの広がりを見せている。新宗教は多くの教団が世界各地で活動していて、とくに創価学会は 100 万人を超える外国人の会員がいる。

海外布教というと、信者を増やすための活動というものがまず念頭に浮かぶであろうが、21 世紀に入ってから日本宗教の海外での活動は多様化している。社会活動や各種災害の被災者の支援活動を展開する教団もあるし、教育面での交流に力点を置く教団もある。また複数の教団が連携あるいは協力してさまざまな活動をする例が増えている。

こうした現況については、日本の報道においては滅多に扱われないし、またこうした日本宗教の展開を調べる研究者はそれほど多くない。なかなか実態が把握できないし、そこでどのようなことが起こっているかの情報は乏しい。そうした現状を認識した上での企画である。

多様な日本宗教の広がりがあるので、現状を網羅的に扱うことは困難である。ただ、グローバル化が進行する時代における日本宗教の展開のありようについて考察していく上に参考になる資料やデータは数多く提示したつもりである。今後の研究の一つの足場にしてもらえればと考えている。

編集責任者  
井上順孝